

緑の相談所だより

— 63号 —

2000. 4. 1 発行

編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

庭木類の春の管理

日時 平成12年4月9日(日)
午後1:30~3:30

講師 旭川市緑の相談所
相談員 小島 博昭

春の園芸作業

日時 平成12年4月23日(日)
午後1:30~3:30

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野 元雄

講習会のお知らせ

定員 いずれも50名 無料

元気で楽しく盆栽づくり

日時 平成12年5月14日(日)
午後1:30~4:30

講師 旭川盆栽会
副会長 庄司 孝光さん

楽しみましょ

バラを

日時 平成12年5月28日(日)
午後1:30~3:30

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野 元雄

お申し込み・お問い合わせは 旭川市緑の相談所 ☎65-5553

New Face



ユリオプス“ゴールドクラッカー”

キク科の多年草 原産地 南アフリカ

お花屋さんの店先にツンツンとのびた茎の先に小さな黄色の花がいくつもついている鉢物を見たことはありませんか？
フラワーアレンジメントで隙間をうめるマスフラワーとして使われています。

花径 1cm 生育適温 10~25℃

乾燥に弱いので注意。

日向と水はけのよい用土を好みます。

生まれは故郷は
南アフリカ

名前にランがついているが
ラン科の植物ではなく
ヒガンバナ科

花後

花が終わったら、種子が不要の
場合は花茎を根元から切り取る。
5月下旬か6月上旬に屋外の明るい
日陰に出す。

鉢替え、植え替えは2～3年
に一度、5月上旬くらい
が最適。

置き場所

室内で育てていた株
は急に戸外に出すと強い
日差し、風で傷みます
ので、6月頃から少し
ずつ時間を長くし、
外気に慣れたら直射日
光の当たらない明るい
日陰の場所に移す。

霜が降りる前に、暖
房のない室内に取り込
む。

(最低温度が5℃以下
にならないように)

晩秋から冬にかけて
10℃前後に1月半
くらいあわせる。

ランシランの育て方



水やり

鉢土の表面が白く乾
いたら、鉢底から
流れ出るくらい
十分に与える。

肥料

液肥(ハイポネック
ス500倍)を週に
一度、置き肥(油粕
など)を月1回与え
る。7月くらいまで

※低温にあわせないと花茎が伸びないで葉の根元で咲いてしまう。※

植え替えの仕方

1. 根土を落しやすくするため1週間～10日前から水やりを止める。
2. 底の方から古土をできるだけ丁寧にとりのぞく。腐った根もとりのぞく。
3. 鉢はほぐした根がやっと入るくらいの大きさのものを用意する。
(大きすぎると過湿になる。)
4. 用土→赤玉土6+腐葉土3+軽石1(土1ℓあたりマグアンプKを3～5g)
5. 鉢に株をすえ、地表部の根がかくれるくらいの浅植えにする。
6. 竹箸で根の間に土を突き込み、根と用土をなじませる。
7. 終わったら水やり、流れ出る水が濁らなくなるくらい。
8. 2～3週間は風の当たらない明るい日陰に置く。
9. 元気がついたら施肥。

○ 果樹、庭木の病害虫防除の開始

昨年中、サクランボのミバエ、スモモ、ナシ等のシンクイムシ類、イチイ等のカイガラムシ。また、モモの縮葉病、スモモのフクロミ病、とくに果実の熟す頃にみられるハイボシ病等の被害で苦勞された方々も多かったようです。これらの害虫、病菌の多くは、樹皮の割れ目、落葉の下、浅い土の中で越冬しております。春暖かくなり病害虫も活動を始める前の早期の防除が被害を避ける決め手です。

- ・ 樹木の萌芽前の防除 ～ 落葉を清掃し、地表を浅く中耕し、石灰硫黄合剤20～30倍液を地面、樹体に散布します。カイガラムシにはマシン油乳剤も有効です（いずれも萌芽後散布厳禁）
- ・ 開花期前後の防除 ～ 花の満開時を避け、蕾のうちから殺虫剤（スミチオン千倍液等）を5～7日おきに2～3回以上散布します。

○ 花壇、野菜畑の土作りと苗植え、種まき

雪が融け土が乾いたら早めに堆肥、石灰等を施し深く耕しておき、苗等を植える10日前に基肥等を施し2回目の耕起、整地、区画割りをします。

苗等を植える前にあらかじめマルチング等で土を暖めておくと、根つきが早まります。

○ 樹木類（花木、庭木、果樹）の新植

4月下旬から5月上旬まで、新芽が出る直前までが適期です。遅れると後の生育に支障が出てきます。

苗の新植の場合、樹木類はこの後土を替えることがないので、最初に堆肥分など十分入った良い土を作り、広く深い植え穴（50×50cm以上）に植え込みます。

○ 草花等の管理

- ・ 早咲き球根草花（チューリップ等） ～ 開花後は、早めに花がらを摘み、株の周囲に指先ひとつまみの化成肥料をまき、葉の生長を促し球根の肥大を図ります。
- ・ 宿根草の植替え ～ 株が混み合うと生育が衰えます。雪解け直後早めに株分け、植替をします。最適期は萌芽前です。

○ 室内鉢物を戸外へ

5月中旬を過ぎると霜の心配も少なくなります。冬の間、室内に取り込み管理した多くの鉢物は暖かくなったら戸外に出し伸び伸びと育てるようにします。

寒さに強いもの弱いもの夫々気温と相談し、強い日照に急に当てないように徐々に慣らし、最初は朝晩の出し入れを繰り返しながら戸外へ出します。

また、多くの鉢物は新芽の発生始めの状態にあります。土替え、鉢替え、株分け等植替えの適期です。

♣ 花づくりは基礎基本を知ることから ♣ part 2

前回は種子の性質（種子の形態、発芽の条件）について紹介しましたので、今回は土について紹介しましょう。

【よい土ってどんな土？】

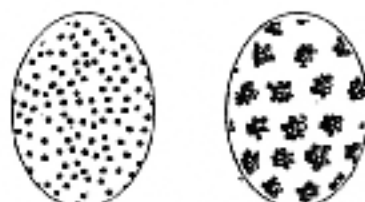
よい土とは、通気性、排水性、保水性、保肥性が良く、有機物を含み、酸性、アルカリ性に偏らず清潔な土です。このような土を一般に団粒構造をした土といいます。

土には直径1mm以下の細かい土の粒（単粒構造）と単粒がくっついて団子状になった土（団粒構造）があります。

単粒構造をした土は、粒の間に隙間がほとんどないため、空気が少なく水が抜けにくく、根が窒息して根腐れを起こします。

団粒構造の土では、隙間がたくさんあって新鮮な空気と水の通りが良く、根も元気よく生育します。

このような土を選ぶことが大切です。



単粒構造

団粒構造

【よく使われる基本用土は？】

1. 粒状の赤玉土…ほぼ無菌の弱酸性土で通気性、保水性、保肥性に優れているので、コンテナ用土としてもよい。
2. 鹿沼土…有機物をほとんど含まない酸性土で、みじんを抜いたものは通気性、保水性ともに高いことが特徴。
3. 水苔…保水性、保肥性が高いのが特徴。
着生らんやサギソウなどの植え込み材料等に広く用いられている。

【よく使われる土壌改良用土は？】

1. 腐葉土…通気性、保水性、保肥性に富むうえ、微量元素を含み微生物を活性化して土壌をよくする。
2. ビートモス…腐葉土とよく似た性質をもち土壌改良材として使えます。しかし強酸性で微量元素をほとんど含まず、微生物を活性化する力が弱いことなどの点は腐葉土と異なるので注意。
3. 堆肥…腐葉土と同様により土をつくる。
4. パーライト…用土の通気性、排水性の改善に。
5. パーミキュライト…粘土質の重い土との混合は避ける。